

徳島新聞の表記記事の中で、世界文化遺産に登録しようとする官民一体の取り組みの一つとして、一步会の活動が紹介されています。

民間団体
多彩な活動で
機運盛り上げ

「お接待は日本独自の文化。大切に守ろう」。2013年9月14日、徳島市の創立地徳島福祉センターで開かれた「歩き遍路とお接待文化を考えるシンポジウム」。100人が遍路文化に関する「人目につく大きな声」で意見を述べた。徳島文理大学のモリス教授の講演や、トロン教授の講演や、パネル討論に耳を傾けた。企画したのは徳島市のNPO法人徳島共生塾一步会。世界遺産登録への機運を高めるために県と共催。11月には勝浦町と阿南市の遍路道を歩くウォーキングイベント、12月には室戸岬の世界遺産化に取り組んだNPO法人の役員を招いての講演会を開いた。

新開善二理事長(77)は「市民が先頭に立って盛り上げたい。一丸となって取り組むことで地域活性化にもつながるはず」と力を込める。

四国遍路と一步会の関わりは04年にさかのぼる。阿南市の遍路道の沿道に大量のゴミが捨てられていることを新聞で知った新聞理事

長は、地元の人々と連携し、活動はその後、四国全域に拡大した。9年間で延べ3500人が参加し、撤去したゴミは700トン以上。一人目につく大きな声で意見を述べた」と新聞理事長。登録に向けたプロシエクトにも力を注ぎつつ、折を見ては番外札所や奥の院の遍路道で清掃活動を統括している。

徳島ユネスコ協会は自主的に早くから四国遍路の世界遺産登録を目指し活動している。

05年にシンポジウム、06年にセミナーを開催のシンクタンクと共催。世界遺産登録に向けての課題を洗い出し、環境改善につなげるため、12年9月から手作りの山着に添え、お遍路さんにもアンケート用紙を配布している。

河内屋子会長(66)は「四国が一丸となって世界遺産を目指す流れができてきた。行政と協力を進めたい」とさらに発表を進めたい。